

9月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- 市町村議会選挙・地域圏議会選挙の実施(4日)
- オランド仏大統領のモロッコ訪問(19日~20日)
- モハメッド6世国王の国連総会演説(王弟ムーレイ・ラシッド王子による代読)(30日)

<内政・政局>

1 市町村議会選挙・地域圏議会選挙結果)

4日,市町村議会選挙・地域圏議会選挙が実施され,内務省が以下の結果を発表した。

(1)市町村議会選挙(政党,獲得議席数(割合))

・真正と現代党(PAM)	6,655 (21.12%)
・イスティクラル等(PI)	5,106 (16.22%)
・公正と発展党(PJD)	5,021 (15.94%)
・独立国民連合(RNI)	4,408 (13.99%)
・人民運動党(MP)	3,007 (9.54%)
・人民勢力社会主義同盟(USFP)	2,656 (8.43%)
・進歩社会主義党(PPS)	1,766 (5.61%)
・立憲同盟(UC)	1,489 (4.73%)

(2)地域圏議会選挙(政党,獲得議席数(割合))

・PJD	174 (25.66%)
・PAM	132 (19.47%)
・PI	119 (17.55%)
・RNI	90 (13.27%)
・MP	58 (8.55%)
・USFP	48 (7.08%)
・UC	27 (3.98%)

2 モロッコ国内3都市におけるテロ協力者の逮捕

(1) 7日付報道によると、タンジェ、ララシュ及びサレにて、期限切れ食品の不正販売により逮捕された9名はテロリズムの資金活動に関与していた事が判明した。

(2) 逮捕された者は、一連の活動により得た利益の一部をシリア・イラクのイスラム国に関連するキャンプ地で志願兵の募集のために資金供与し、テロ組織の戦闘員の家族を支援していた。

3 テロ細胞解体とアルジェリア経由の武器の流入

(1) 14日付報道によれば、12日、中央司法捜査局(BCIJ)が5名のテロリストからなるテロ細胞を解体し、アルジェリアからモロッコ東部国境地帯を経て流入した武器を押収した模様。

(2) 逮捕された者は、ベニ・メラル、シディ・アラル・アル・バフラウィ、ティンズリンにおいて活動、このうち3名はエッサウイラにおいて逮捕されたほか、拳銃4丁、サブマシンガン1丁、実弾、催涙ガスボンベ7個、携帯型電気ショック器具3個、爆発物製造材料、刀剣類が押収された。

(3) 押収された武器はアルジェリアからモロッコ東部国境地帯を経て流入していた模様であり、逮捕されたテロ細胞のメンバーはISILに忠誠を誓うとともに「モロッコにおけるカリフの兵士」(Jound Al Khilafa au Maroc)を名乗り、ISILによる指導の下でモロッコ国内において破壊工作を実行した後、シリア・イラクにまたがるISILのキャンプに加わることを計画していた。

4 テロ細胞解体

(1) 22日付報道によると、18日及び19日、BCIJがテロ企ての容疑で6名を逮捕した。逮捕された者はベニ・メラル、ベニズランタール、タグズィルト、フウム・ランサル、シディ・アラル・エル・バフラウィ及びテトゥアンで活動しており、このテロ細胞が「モロッコにおけるカリフの兵士」(Jound Al Khilafa au Maroc)を名乗り、モロッコ国内におけるテロにより市民の間にパニックを引き起こすことを狙いとしていたとみられている。

(2) 今回逮捕された6名は、12日に逮捕された者と同一の組織に属するものであり、携帯電話を使用した遠隔操作爆弾を準備の上、刑務所に対する自爆テロを行うことでISIL関係者の解放を計画していた。

< 外交・国際関係 >

4 オランダ仏大統領のモロッコ訪問

(1) 19日及び20日、オランダ仏大統領が公式実務・友好訪問の枠組みで当国タンジェを訪問した。オランダ仏大統領は、記者会見で、両国間の障害は単に消し去られ、乗り越えられただけでなく、過去のものとなった旨述べた上で、モハメッド6世国王とともに今次訪問により仏・モロッコの協力関係の新しい段階を切り開いた旨発言した。

(2) 今次訪問には、仏から5名の閣僚（ファビウス外務大臣、ロワイヤル・エコロジー・持続可能な開発・エネルギー大臣、ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣、コムリ労働・雇用・職業訓練・社会対話大臣、ル・グエン国会関係担当大臣）のほか、ペピSNCF総裁、ケイン・タレス・グループ社長、プパール・ラファルジュ・アルストム・トランスポール社長など仏系企業経営陣、エリザベート・ギグー国民議会外交委員会委員長、ミシェル・ヴォーゼル同副委員長、ラシダ・ダティ元司法大臣、ジャック・ラング・アラブ世界研究所所長（元文化大臣）等が同行した（41名からなる代表団のうち17名が仏有力企業のトップを占めた）。

(3) モロッコ側は、オランダ大統領のタンジェ空港到着の際、モハメッド6世国王、ムーレイ・エル・ハッサン皇太子、王弟ムーレイ・ラシッド王子のほか、ベンキラン首相、タルビ・アラミ衆院議長、ピアディラー参院議長、多数の閣僚が出迎えた。

(4) 19日にファビウス外務大臣とトゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣が署名した宣言では、本年3月ラバトに設立されたモハメッド6世イスラム指導者養成学院が開放的で寛容な価値にかなった中庸のイスラムを促進することを歓迎し、同養成学院による毎年50名の仏人イスラム指導者の受入れが盛り込まれたとされている。

(5) また同日、オランダ仏大統領はモハメッド6世国王とともに、仏重電メーカー・アルストム・トランスポールが売却・引渡したモロッコ高速鉄道（TGV）車両を見学するとともに、車両整備工場（仏SNCFと当国ONCFが共同出資するJVが運営）の開所式に出席した。モロッコTGVはタンジェからカサブランカの区間で2018年に開通することが期待されている。

(6) 20日、オランダ仏大統領とモハメッド6世国王の臨席のもと、両国政府は気候変動に関するタンジェ・アピール（l'Appel de Tanger）を発表した。同アピールでは、本年11月パリにて開催されるCOP21及び明年当国マラケシュでの開催が目されるCOP22を念頭に、両国が手に手を取り合い、2つの重要な会議を成功に導くために協力することを約束した。

5 スウェーデンによる「サハラ・アラブ民主共和国（RASD）」承認の可能性

(1) 29日付報道によれば、スウェーデンによる「サハラ・アラブ民主共和国（RASD）」承認の可能性に対し、モハメッド6世国王の指示により、ベンキラン首相が与野党を含む9政党の党首を招集し、与野党の枠組みを超えた対応策について緊急会議を

開いた。

(2) 同会議に出席したベンアブドゥラ進歩社会党 (P P S) 党首 (住宅・都市政策大臣) は、スウェーデンによる「 R A S D 」の外交的な承認の可能性に早急に対応する必要がある旨述べつつ、日程や面会予定は未定であるものの、2、3日中に9政党からなる代表団がストックホルムを訪問し、スウェーデン政府に対し申入れを行う予定である旨述べた。

(3) また、29日にモロッコで初めてのイケアの店舗がカサブランカ近郊に開店する予定であったが、大カサブランカ地域圏当局政府はイケアからの「原文証明」の未提出を理由に開店延期を発表した。

6 モハメッド6世国王の国連総会演説

(1) 30日、NYで開催中の国連総会において、王弟ムーレイ・ラシッド王子がモハメッド6世国王の一般討論演説を代読した。国王は演説の中で、2030年までの持続可能な開発計画は、過去の開発計画を客観的に評価した上で十分な財政的支援に支えられるべき旨強調した。また、とりわけアフリカにおける貧困問題の解決を訴え、特に国連や国際的・地域的な金融機関に対し、経済改革のための行動計画の策定及び財政支援の提供を呼びかけた。

(2) このほか、2020年に向けてモロッコのエネルギー需要の42%を再生可能エネルギーでまかなう計画を紹介、本年のCOP21にかかる仏の努力への支持を再度表明しつつ、明年のCOP22のマラケシュ開催に対する強い意欲及び意義を示した。

(3) 西サハラ問題については、無責任な冒険を非難しつつ、国連による平和的な解決の継続を呼びかけた。

< モロッコ要人の外国訪問 >

日付	国	氏名・肩書き	目的
9月14-15日	セネガル	アフィラル水利担当大臣	ディオ首相と会談（水利分野協力協定署名）
9月21日	ア首連	メズアール外務・協力大臣	ムハンマド・ビン・ラシド・アル・マクトウム副大統領（兼首相）との会談
9月25日-	米国	メズアール外務・協力大臣	国連総会出席 （アラブ諸国外相会合出席にしたほか、潘基文国連事務総長、ムシキワボ・ルワンダ外相、バクーシュ・チュニジア外務大臣、エルウッド英外務政務次官、オルギン・コロンビア外務大臣と会談）
9月28日	米国	ムーレイ・ラシッド王子	国連総会出席
9月28日	米国	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣	国家LNG開発計画推進のため訪米
9月28日	ギニア	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	カトラ水力発電所開所式出席

< 外国要人のモロッコ訪問 >

日付	国	名・肩書き等	目的
9月1日	スペイン	モレナス国防大臣, フェルナンデス・ディアス内務大臣	スペイン・モロッコ内務・国防大臣合同会合
8月~9月10日	サウジアラビア	サルマン国王	私的滞在(途中, 米国滞在)
9月19-20日	フランス	オランド大統領	モハメッド6世国王と会談したほか, 各種行事に出席
9月21日	ブラジル	クレベル・ヴェルデ・コルデイロ・メンデス・ブラジル議会議員(ブラジル・モロッコ友好議連会長)	ベンキラン首相, タルビ・アラミ衆議院議長, ビアディラー参議院議長と会談
9月28-30日	英国	フランセス・デ・スーザ貴族院議長	ベンキラン首相, タルビ・アラミ衆議院議長, ビアディラー参議院議長と会談

(了)